

平成24年度第2四半期「景気動向調査」結果報告

製造業は再び景気に後退感が見られ、 両業種とも今後は厳しい見通し

【製造業】

コメント:

売上(出荷)額において、DI値が三カ月前比では▲5.3から14.7悪化し、▲20.0となっており、前期調査で大幅な改善が見られたが今期再び悪化に転じ予断を許さない状況である。対前年比では▲18.4から1.6悪化し▲20.0となっておりこちらも前期調査の回復から再び悪化に転じ、景気の後退感が見られる。三カ月後予測では前期調査で初めてプラスの数値が見られたものの今期36.7悪化し▲31.4となっており厳しい見通しをされている。

景況感において、三カ月前比では▲18.4から18.7悪化し▲37.1と大幅な落ち込みが見られ景気の後退感が強まる結果となった。対前年比では▲5.3から31.8悪化し▲37.1となっており景気回復と悪化を繰り返す推移し不安定感が感じられる。三カ月後予測では▲5.3から29.0悪化し▲34.3と慎重な姿勢を見せている。特に、季節的要因もあり食品製造業の悪化が目立った。

節電による影響については、半数以上の事業所が「影響はない」と回答している。9%(3社)が「かなり影響がある」と回答しており、工場等では実際に節電要請があっても機械を止められないのが現状のようである。

【非製造業】

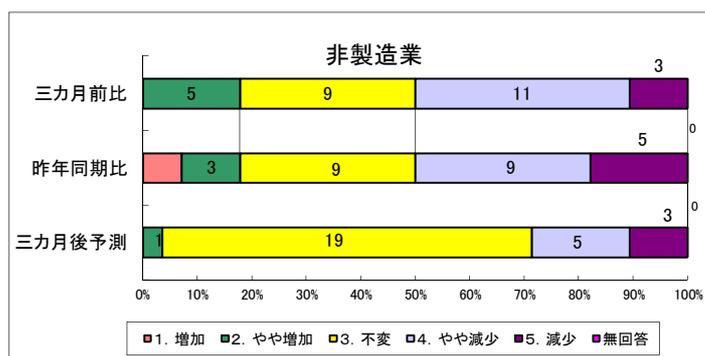
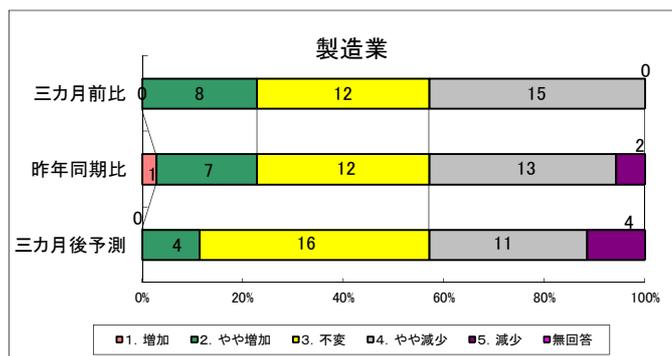
売上(出荷)額において、DI値が三カ月前比では▲50.0から17.9回復し、▲32.1となっており回復の動きが見られるものの依然厳しい状況である。対前年比では▲64.3から32.2回復し▲32.1となっているが前期の大幅な悪化からの改善であり実感はかなり薄い。三カ月後予測では▲21.4から7.2悪化し▲28.6と両業種とも今後は厳しい見通しをされている。

景況感において、三カ月前比では▲42.9から7.2回復し▲35.7となっており、3期連続の回復傾向であり緩やかではあるが改善の動きが見られ、今後の調査に期待する。対前年比では▲60.7から10.7回復し▲50.0と回復の動きが見られたものの依然厳しい状況であり両業種とも回復と悪化を繰り返す推移し景気不安定感が見られる。三カ月後予測では▲21.4から7.2悪化し▲28.6と悪化幅は小さいが厳しい見通しをされ予断を許さない状況である。

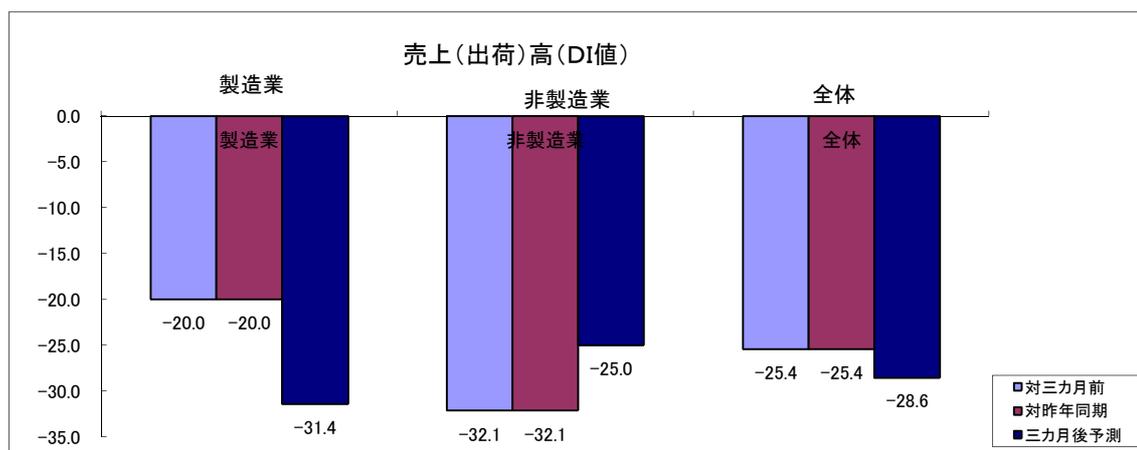
節電による影響については、54%(15社)の事業所が「影響はない」と回答。

A. 調査概要

1. 貴社の売上(出荷)額について



DI値	対三カ月前	対昨年同期	三カ月後予測	対三カ月前 (前回)	対昨年同 期 (前回)	三カ月後予測 (前回)
製造業	-20.0	-20.0	-31.4	-5.3	-18.4	5.3
非製造業	-32.1	-32.1	-25.0	-50.0	-64.3	-17.9
全体	-25.4	-25.4	-28.6	-24.2	-37.9	-4.5

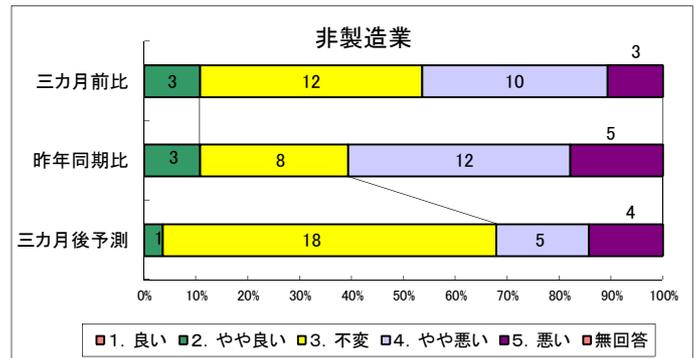
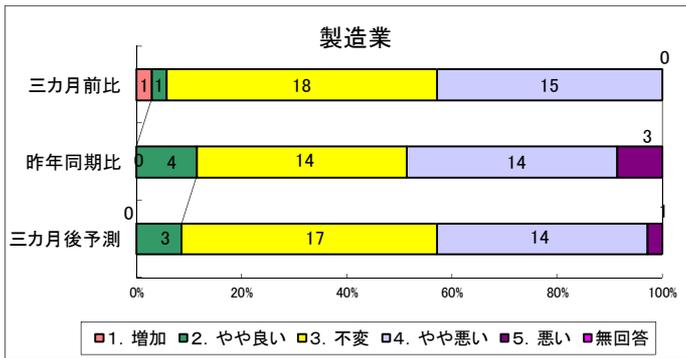


対三カ月前比において、製造業ではDI値が▲5.3から14.7悪化し、▲20.0となっており、前期調査で大幅な改善が見られたが今期再び悪化に転じ予断を許さない状況である。非製造業では▲50.0から17.9回復し、▲32.1となっており回復の動きが見られるものの依然厳しい状況である。

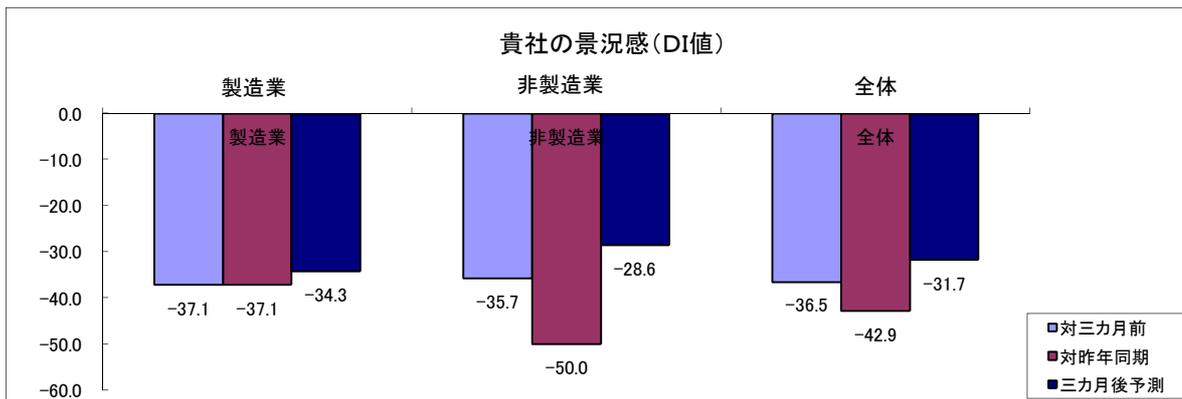
対前年比において、製造業では▲18.4から1.6悪化し▲20.0となっておりこちらも前期調査の回復から再び悪化に転じ、景気の後退感が見られる。非製造業では▲64.3から32.2回復し▲32.1となっているが前期の大幅な悪化からの改善であり実感はかなり薄い。

三カ月後予測において、製造業では前期調査で初めてプラスの数値が見られたものの今期36.7悪化し▲31.4となり、非製造業においても▲21.4から7.2悪化し▲28.6と両業種とも今後は厳しい見通しをされている。

2. 貴社の景況感について



DI値	対三カ月前	対昨年同期	三カ月後予測	対三カ月前 (前回)	対昨年同 期 (前回)	三カ月後予測 (前回)
製造業	-37.1	-37.1	-34.3	-18.4	-5.3	-5.3
非製造業	-35.7	-50.0	-28.6	-42.9	-60.7	-21.4
全体	-36.5	-42.9	-31.7	-28.8	-28.8	-12.1



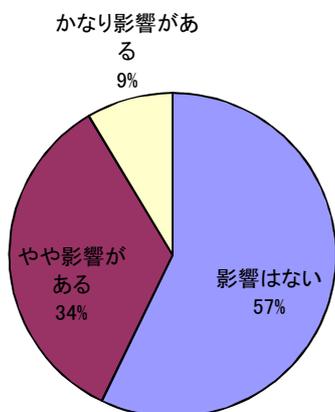
対三カ月前比において、製造業ではDI値が▲18.4から18.7悪化し▲37.1と大幅な落ち込みが見られ景気の後退感が強まる結果となった。非製造業では▲42.9から7.2回復し▲35.7となっており、3期連続の回復傾向であり緩やかではあるが改善の動きが見られ、今後の調査に期待する。

対前年比において、製造業では▲5.3から31.8悪化し▲37.1。非製造業では▲60.7から10.7回復し▲50.0と回復の動きが見られたものの依然厳しい状況であり両業種とも回復と悪化を繰り返し推移し景気的不安定感が見られる。

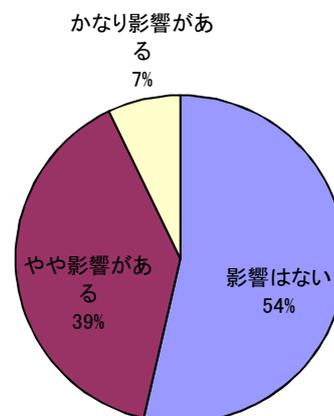
三カ月後予測において、製造業では▲5.3から29.0悪化し▲34.3。非製造業では▲21.4から7.2悪化し▲28.6。非製造業の下落幅は小さいものの両業種とも厳しい見通しをされ予断を許さない状況が続く。

3. 節電要請に関して、貴社の経営に何か影響はありますか。

製造業



非製造業



	かなり影響がある	やや影響がある	影響はない
製造業	9% (3社)	34% (12社)	57% (20社)
非製造業	7% (2社)	39% (11社)	54% (15社)

製造業、非製造業ともに半数以上が「影響はない」と回答している。製造業で9%、非製造業で7%の事業所が「かなり影響がある」と回答。製造業の工場等では実際に節電要請があっても機械を止められないのが現状のようである。

B. 調査概要

1. 調査目的 四半期ごとに景気動向調査を実施し、管内景況を恒常的に把握する。
調査を実施し恒常的に管内景況を把握する。
2. 調査期間 平成24年7月30日～8月3日(基準日8月1日)
3. 調査方法 FAXにより依頼、回答
4. 調査対象 各役員議員、部会役員 131社

※DI値＝「好調＋やや好調」(持ち直す)の回答割合から「悪い＋やや悪い」(悪化する)の回答割合を差し引いたもの。数値が高いほど景況感が良く、低いほど悪い。
プラス100が最高値、0が平均、マイナス100が最低値を示す。

5. 回答企業の属性

所属部会	対象数
一般工業	21
建設業	17
醤油工業	7
食品工業	13
皮革工業	17
公益業	15
サービス業	9
理財	8
商業	24
合計	131

調査対象	対象数	回答数	回答率
製造業	75	35	46.7%
非製造業	56	28	50.0%
合計	131	63	48.1%